

## 第4回横須賀市教育振興基本計画策定検討委員会 議事録

■日 時 令和3年(2021年)10月20日(水) 10:00~11:30

■場 所 Web会議システムによるリモート開催  
(教育委員会事務局は301会議室、傍聴は404会議室にて実施)

### ■出席者 (敬称略)

委員長	小林 宏 己 (早稲田大学教育・総合科学学術院 教授)
職務代理者	梨 本 加 菜 (鎌倉女子大学児童学部 教授)
構成員	妹 尾 昌 俊 (教育研究家、合同会社ライフ&ワーク 代表)
	渡 辺 孝 夫 (社会教育委員)
	櫻 井 聡 (横須賀市PTA協議会 会長)
	梅 谷 尚 子 (小学校校長会 代表)
	伊 藤 学 (横須賀総合高等学校 校長)
	松 浦 大 翼 (三浦半島地区教職員組合 副委員長)
	小野寺 恵 恵子 (公募市民)
	岡 本 純 子 (公募市民)
欠席	小 番 奈 緒美 (中学校校長会 代表)

教育委員会事務局	佐々木 暢 行 (教育総務部 部長)
	米 持 正 伸 (学校教育部 部長)
	高 橋 直 人 (生涯学習課 課長)
	川 上 誠 (教育指導課 課長)
	富 澤 真由美 (支援教育課 課長)
	鈴 木 史 洋 (保健体育課 課長)
	阿 部 優 子 (教育研究所 所長)
	古 谷 久 乃 (教育政策課 課長)
	小 甲 諭 (教育政策課 課長補佐)
	内 田 貴 雄 (教育政策課 主査指導主事)
	伊 藤 颯之介 (教育政策課 担当者)

■傍聴人 7名 (404会議室にて大型ディスプレイからの視聴により傍聴)

■議 題 議題1 「目指す姿」及び「方針・柱・施策」について  
・前回会議、教育委員会定例会及び総合教育会議での意見を踏まえた修正内容の報告

- 議題 2 計画全体の素案について
- 議題 3 教育委員会点検・評価報告書について
- 議題 4 今後のスケジュールについて

- 資料
  - 資料 1 前回会議、教育委員会定例会及び総合教育会議での意見と事務局の考え方
  - 資料 2 目指す姿、方針・柱・施策の修正案
  - 資料 3 計画全体の素案
  - 資料 4 教育委員会点検・評価報告書（令和 2 年度対象）
  - 資料 5 今後のスケジュール
  - 参考資料 議事録（第 3 回検討委員会）

- その他
  - 本委員会は、全部を映像と音声の送受信により相手の状態を相互に確認しながら通話をすることができるシステムを利用する方法により行い、会議の冒頭において、事務局が委員間で映像と音声即時に伝わることを確認するとともに、映像と音声により委員本人の確認をした。

## ■発言内容

### （教育総務部・佐々木部長）

ただいまから、第 4 回横須賀市教育振興基本計画策定検討委員会を開会いたします。本日もオンライン上での会議となりますが、よろしくお祈いします。

それでは、会議の進行を小林委員長にお祈いいたします。よろしくお祈いいたします。

### （小林委員長）

前回の会議では、次期計画に位置付ける「目指す姿」や「方針・柱・施策」の事務局案に対し、委員の皆様からご意見をいただきました。

本日は、次第に記載のとおり、

- 議題 1 「目指す姿」及び「方針・柱・施策」について
- 議題 2 計画全体の素案について
- 議題 3 教育委員会点検・評価報告書について
- 議題 4 今後のスケジュールについて

の 4 つを議題とします。

それでは、議題 1 「「目指す姿」及び「方針・柱・施策」について」に入ります。事務局から説明をお願いします。

## 議題1 「目指す姿」及び「方針・柱・施策」について

(教育政策課 小甲課長補佐)

資料1と資料2をご準備ください。

資料1には、いただいたご意見と事務局の考え方を、資料2には、前回会議でお示した内容と修正案を記載しています。

それでは、資料1に沿ってご説明いたします。まず、目指す姿についてですが、前回の検討委員会では、1番から4番のご意見になりますが、「横須賀が好き」に込めた思いを記載している部分について、横須賀で生まれ育った人ばかりではないので、「生まれ育ち」や「地元」という表現に抵抗があるのではないか、というご意見をいただきました。また、「横須賀で活躍し、」という表現もありましたが、横須賀で活躍することも、世界に出て活躍することもどちらも良い選択肢であり、必ずしも横須賀で活躍することに限定する必要はないのではないかとのご意見をいただきました。

こちらにつきましては、ご意見を踏まえ、「横須賀が好き」に込めた思いの中の「生まれ育ち」や「地元」という表現を削り、「人々と出会い、学び、暮らすこのまちへの愛情・愛着を大切に」と修正します。

次に、5番から9番のご意見ですが、こちら「横須賀が好き」の部分について、「郷土愛」という表現は、これまでの議論にもありましたが、ナショナリズムや押し付けと受け止められるという懸念があるのではないかと、大事にしたいことは「地域への理解を深める」ということなので、そのような表現に改めた方が良いのではないかと、というご意見をいただきました。

こちらもご意見を踏まえ、「郷土愛」を「郷土理解」に修正いたします。

2ページをお開きください。

10番から14番のご意見ですが、「基本理念」の「人づくり」としていた部分についてです。理念は「基となる考え方」なので、本来の理念は3つの好きが表す内容になるはずであり、理念を「人づくり」とすることには引っ掛かる、などのご意見やご提案をいただきました。

こちらにつきましては、教育に関する理念なので、「人づくり」とすることが適していると考えていますが、14番のご意見にあるように、「基本理念」という言葉の意味（響き）と、今回の3つの「好き」というキャッチフレーズ的な言葉との組み合わせが違和感を生んでいるとも考えられますので、「横須賀の教育の基本理念」ではなく、「横須賀の目指す教育の姿」として掲げるように修正します。

次に、15番から17番のご意見ですが、イメージ図について、「矢印でつながっていると、最終的に横須賀が好きに集約させているように見えるので、郷土愛の押し付けと捉えられるのではないかと」ったご意見や、「上下や順序を発生させず、トライアングルのような形が良いのではないかと」などのご意見をいただきました。

こちらにつきましては、色々と試してみたのですが、トライアングルにしても頂点のものが生まれてしまうなど、なかなか難しいものがありました。矢印については、ご意見の

とおりでと思いますので止めたいと思いますが、今のイメージ図はキーワードがはっきり示せて、そこに込めた思いもセットで示すことができ、また、「説明資料」のような堅苦しさも軽減できると考えていますので、これをベースにし、今後デザイナーにデザインを依頼するなど、よりイメージを伝えやすいものにしていきます。

3ページをご覧ください。

18番から20番のご意見ですが、計画の英語表記についてご提案をいただきました。

こちらにつきましては、ご意見を踏まえ、目指す教育の姿や、そこに込めた思いを英語表記して周知する方向で検討いたします。

ここまでが、前回の検討委員会でいただいたご意見についてですが、その後、教育委員から、21番からになります。感想やご意見をいただいています。

26番のご意見では、3つの「好き」が表すキーワードと各柱との対応関係が示せると分かりやすいとご意見をいただいています。また、「目指す教育の姿」は全ての方針、柱、施策をもって実現していくという考えなので、対応関係を明確に示すよりは、「あらゆる面で関係する」というスタンスで策定したいと考えています。

4ページをお開きください。

目指す姿については、10月7日の総合教育会議においても案を示し、市長と意見交換をしました。市長からは、下段のとおり、3つの「好き」は良いと思うが、自分自身は後から来るもので、第三者、あるいは「あなた」がいなければ「自分が好き」という認識にはならないのではないか、自分自身では自分はわからないのではないか、そのため、順番としては先に「あなたが好き」が来た方が良いのではないか、というご提案をいただきました。

これを受けまして、教育長からは、ここには記載していませんが、「コロナの影響もあり、人と人との対面でのつながりがどんどん薄れていってしまい、一番恐れるのは、孤独の「個」になってしまうことではないか。その意味で、まず「あなたが好き」という、「個」ではない、集団というか、友達がいるんだ、人がいるんだということを重点に置く、ということ。市長も思われたと思っているので、この部分についてはあらためて検討委員会の中でご審議いただいて、私たちの伝えたい、伝えようとしている真意は何かということをわかりやすく表現したい」とお答えしています。

上段に記載していますが、これまでの検討委員会でも、「まずは自己肯定感が大事」という考え方もあれば、「私が好きから入ると、自己肯定感が低い子どもにとって入りづらいのではないか」「3つの関係は並列であり、相互に関係し合うものではないか」など、3つの「好き」の関係性に関する議論がありました。

事務局としては、「(今は)自分を好きになれない」という人への配慮に加え、これまでの「価値観の押し付け」に関する議論も踏まえると、他者理解や多様な価値観を認め合うことの大切さを表す「あなたが好き」を最初に持つてくることは、意味のあることではないかと考えています。総合教育会議での意見を踏まえ、あらためて検討委員会の皆様のご意見をいただき、検討したいと思います。

次に、方針・柱・施策についてです。5ページをご覧ください。

まず、方針1についてですが、前回検討委員会では、施策2としていた「個に応じた学びについて」、これを示すのであれば「協働的な学び」もセットで示す必要があるのではないかとのご意見をいただきました。

こちらにつきましては、「個に応じた学び」を施策1「主体的・対話的で深い学びの実現」と一本化した上で、キーワードである「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」をサブタイトルとして示し、強調するように修正いたします。また、これらを支えるツールであるICTの活用についても、その重要性を施策に示し、強調する必要があると考えますので方針4の柱7「社会変化に即した教育環境」に施策17として「教育の質の向上に向けたICTの活用推進」を別建てで追加いたします。

教育委員からは、32・33番のご意見のほか、34番、これは方針1に限りませんが、現行計画から継続する施策と新たな施策など、現行計画との関係性を明確にしてほしい、というご意見をいただいています。

こちらにつきましては、次期計画に掲載するか、現計画期間の検証として別途作成するものに掲載するかなども含めて、検討いたします。

6ページをお開きください。方針2についてです。

35、36番のご意見は支援教育という言葉の捉え方と施策の立て方についてですが、こちらは既に会議の中で担当課長からお答えさせていただいたものです。支援教育は障害の有無にかかわらずさまざまな支援ニーズのある児童生徒を支援するものですが、不登校や外国につながる児童生徒の増加を大きな課題と捉え、施策として別建てしています。

37番は、教育委員からの意見です。多様な教育的ニーズへの対応は学校だけでなく、家庭や地域との連携が必要であり、方針4の施策名「学校・家庭・地域の連携による教育力の向上」は、「学びと支援の推進」のようにした方が良いのではないかとのご意見ですが、こちらにつきましては、そういった支援も含めて「教育力」と捉えていますので、原案どおりにしたいと考えています。

7ページをご覧ください。

方針3についてですが、38・39番はご意見のとおり修正いたします。

40番のご意見は、柱6は「地域の歴史・文化・自然から得る学び」なので、施策名は図書館、博物館、美術館という3施設だけを強調するのではなく、「地域の様々な資源や自然に接するなどの豊かな学びの推進」にしてはどうか、というご提案をいただいたものです。

こちらにつきましては、確かにこの施策は「地域の様々な資源や自然に接するなど豊かな学びの推進」であると思いますが、柱と同様のネーミングになるということと、やはり、市の施策として打ち出すには、市の代表的な社会教育施設である図書館・博物館・美術館を示すことが、市民にとってイメージしやすさにつながると考えますので、原案どおり施設名を出したいと思います。これら3施設以外の自然環境、地域資源を活用した取り組みは、方針3の他の施策でカバーしているという考えで整理したいと思います。

方針4については、前回検討委員会では特にご意見はありませんでしたが、教育委員の方から記載のとおり、先ほどのICT活用の追加についてご意見をいただき、修正しています。

以上が、議題1「目指す姿」及び「方針・柱・施策」についてのご説明となります。よろしくお願いたします。

(櫻井委員)

「あなたが好き」を最初に持ってくるという案を初めて聞いたとき、確かにそうだと思います。常識から考えて、「私が好き」を最初に持ってくることについては、これまでの自己肯定感の議論の件を知らなければ、違和感を覚えても仕方ないことだと思います。ですので、「あなたが好き」を最初に持ってくる点には賛成です。

自己肯定感の低さに関しては、個人的に思う点が色々ありますので、時間があればまたお話しさせていただきたいと思っておりますが、この問題は、別建てとして盛り込んでいくということを考えていけると良いと考えています。

(小野寺委員)

市長からのご意見を聞き、一個人としては、自分のことが好きでなければ、他者への思いやりの気持ちは持てないのではないかと考えていました。ただ、それを基に修正が加えられたイメージ図を見たときに、矢印が無くなって丸だけになったことや、「私が好き」が真ん中に来たことが良い印象として残ったことから、結果的に「あなたが好き」が前に来て良かったのかもしれないと思いました。「私」が中心になり、「あなた」がいて「横須賀」があるという構図にも見え、また、矢印が無くなったことで、社会が循環していることを表すような印象も受けました。子どもにとって視覚的要素は効果的だと思いますし、単純にすっきりして分かりやすくなった印象です。

文章で見たときには、「あなたが好き」が最初に来て、「私が好き」に続きますが、図で見たときには、「私」がいて、社会が循環しているのだということも感じられるものになりましたので、個人的にはこの構成でふに落ちました。

(伊藤委員)

今のお二人のご意見を聞き、教育に直接携わっている身としては、どちらかという小野寺委員の意見に近いと感じました。私が今まで経験してきた子どもの発達のありようというものは、まずは自分を認めて、そこから他者などへ広がっていくというものでした。ですので、「あなたが好き 私が好き 横須賀が好き」と最初に聞いたときは、多少の違和感がありました。しかしながら、今まさに小野寺委員がおっしゃったように、このイメージ図の修正案を見ると、最初に目に入ってくるのは「私が好き」です。そもそもこの3つの言葉には、順序性があるようでないようなものです。ですから、あまり文言の順番にはこだわり過ぎないようにすることが大事だと思います。今後、議論が進んでいっても、このイメージ図は大きく変えないということが前提であるならば、「あなたが好き」が先頭に来ることも、ある意味横須賀らしくて良いと思えるのではないかと感じました。

このイメージ図を前面に出していき、順序性についてあまり強調し過ぎないような見え方にする方が良いと思います。

(松浦委員)

前回もお話ししましたが、この3つの「好き」には相互関係があり、互いに作用しているものだと考えますので、伊藤委員のおっしゃるように、順番はあまり関係ないと思います。

学校教育では、低学年のうち、自己肯定感を高めるためにも、教員が一人一人に対して声掛け等をし、教員対個人という構図で関係を築いていくことが多く、中学年になると、教員対クラスという構図になり、子どもたちがクラスの中でお互いを認め合っているような関係を構築します。高学年になると、個人対学校全体という構図に広がっていき、それぞれの自己肯定感を高めながら、他者との関わりを広げていけるようにするという意識を、学校では子どもたちに関わっています。このようにだんだんと広がっていくということを考えると、やはり「私が好き」が、学校現場では第一になっていると感じます。

ただ、小野寺委員のおっしゃるとおり、イメージ図を見ると、「私が好き」が中心にあり、そこから派生しているようにも見えますので、このままでも良いと思います。

また、社会教育の観点や、横須賀へ移住してきた人たちの観点で見たときには、「私が好き」が第一義でなくても、誰かを好きになり横須賀へやってきたというような考え方もあると思いますので、「あなたが好き」が最初に来て、違和感はないのではないかと感じました。

(梅谷委員)

今回の総合教育会議の結果を受けて言葉の順番を変えたということに対しては、それぞれの立場で、また、何を中心にどの面から考えるかということによって、さまざまな論点があるのだということを感じました。

初等教育の教育者としての立場から申し上げるならば、松浦委員がおっしゃったように、第一人称である「私」が先に来るのではないかと考えています。教育に関わる法律や学習指導要領などでも自立ということがうたわれているように、自己の確立が先に来るものです。「他者との関わり」ということも書かれてはいますが、やはり教育の出発というものは、人としての自立であり、そしてそれは学校教育として身に付けていくべき目指す姿であると解釈しています。その顕著なもの例として、道徳教育に関しては、第一に自分自身に関する事、第二に人との関わりに関する事、そして第三に集団や社会との関わりに関する事、というように、発達の段階に伴った育ちの広がりがあると思いますので、横須賀市教育委員会が定める横須賀市教育振興基本計画であるならば、やはり「私が好き」を最初に置くのが良いのではと考えています。向こう10年を考えた中で、最初の4年については「あなたが好き」を頭にするといったことも考えられると思います。

固執しているわけではありませんが、学校教育としては、「私」が最初ではないかと考えています。ただ、小野寺委員と同様に、見え方も重要であると感じています。イメージ図を見たときに、「私が好き」が真ん中にあることで目に飛び込んできますので、これが核なのだという見え方にもなります。ですので、字を大きくして強調したり、デザインで工夫

していただいたりして、これが横須賀の教育の基礎であると見て取れるようにしていただきたいと思います。

言葉の順番が変わることで授業まで変わってしまうものではないと解釈しましたが、学校ではこれを基にして学校教育目標を立て、学校長が教育方針を立てていくものですので、私の立場としては以上のように感じました。

#### (妹尾委員)

どちらの言葉が先でも、どちらも良さがあると感じました。あとはニュアンスの問題かもしれませんが、例えば、自助、共助、公助のように、まずは自分で、そして一人ではできないことは他者と力を合わせながら、そして最後に公共の手助けを、というように、自分からだんだんと周りへ広がっていくというのが普通の流れなのではないかと感じますので、そういった意味では、以前のように「私が好き」が先に来る方が自然な印象があります。ただ、櫻井委員がおっしゃるように、「私が好き」をいきなり出されると違和感を覚える方もいると思いますし、そこは感じ方が人それぞれなので、キャッチーな分、誤解も生まれやすいかもしれませんが、ある意味これも多様性として面白いのではないかと感じます。

結論はうまく出せませんが、個人的には「私が好き」が最初に来る案のままでも良かったのではないかと感じます。ただ、絶対そうあるべきだとも考えていません。

自分が好きかどうかはともかくとして、自分のことを大切にしながら、他者のことも大事にするということや、しっかり自立していくということが教育として大切になってきますので、「私が好き」が教育の中核となっているという考え方には賛成です。

市長のおっしゃるように、あなたがいなければ私にならないという考え方もあるかもしれませんが、一方で、デカルトの「我思う、故に我在り」ではないですが、まずは私がいなければと思うところもありますので、「あなたが好き」が最初のほうがよいという理屈は納得しかねる部分もあります。

#### (梨本委員)

まず、先ほど小野寺委員がおっしゃったように、「私が好き」を真ん中に配置することによるビジュアルの効果は、確かにあると感じました。

次に、計画の体系についてですが、特に方針1や2を見ると、「私が好き あなたが好き」の順番に対応するような並びになっていますので、目指す教育の姿と方針・柱・施策の並び順に齟齬がないように気を付けていただく必要はあるかと思っています。ですが、「私が好き」と「あなたが好き」の並び順には、特にこだわらなくても良いと考えています。

#### (渡辺委員)

自助、共助、公助と言われるように、また、語学では一人称、二人称、三人称と言われるように、まずは「私」があり、そして「あなた」がいるものだと思います。「私が好き」というのは、自分を大切にすることによって、自分が一番であるということではないと考えます。やはり、自分を大切にできない人は、他人を大切に思うこともできないだ



ろうと思いますので、順番を入れ替えてしまうというのは、少し違うような気がします。順番というわけではありませんが、流れのようなものはあるのではないかと思いますし、オーソドックスな流れに沿った最初の案の方が、なじみやすく落ち着くのではないかと感じます。

**(岡本委員)**

世の中が欧米化してきたことで、「私」の強さや自己肯定感というものが重要視されるようになってきたと感じます。ですが、人との調和や協調性というものがあることで、人間関係や社会がうまく回っているという側面もあるのだと思います。

目指す教育の姿に込めた思い「あなたが好き」の説明文について、「違いを認め」ではなく、「自分と異なる他者を知り」などのような文言の方が良いのではないかと感じます。「認め」という言葉だと、少し上から目線のような印象を受けます。

**(小林委員長)**

私自身も、大前提としては皆さんの意見とほぼ一致しています。子ども一人一人の「私」の部分がしっかりと自立しているということが必要であると考えますが、それと同時に、その自立というのは、周囲や社会の人たちとのコミュニケーションや交渉の中で育っていくものですので、そういった意味では「私」と「あなた」は表裏一体であるといえます。

**Education2030：共有しているビジョン**

私たちには、全ての学習者が、一人の人間として全人的に成長し、その潜在能力を引き出し、個人、コミュニティ、そして地球のウェルビーイングの上に築かれる、私たちの未来の形成に携わっていくことができるように支えていく責務がある。2018年に学校に入学する子供たちには、資源が無限だとか、資源は利用されるために存在するといった考え方を捨てることが求められる。それよりも、全人類の繁栄や持続可能性、ウェルビーイングに価値を置くことが求められるだろう。彼らは、分断よりも協働を短期的な利益よりも持続可能性を大切に責任を負うとともに権限を持つ必要がある。

「VUCA」(不安定、不確実、複雑、曖昧)が急速に進展する世界に直面する中で、教育の在り方次第で、直面している課題を解決することができるのか、それとも解決できずに敗れることとなるのかが変わってくる。新たな科学に関する知識が爆発的に増大し、複雑な社会的課題が拡大していく時代において、カリキュラムも、おそらくは全く新しい方向に進化し続けなければならないだろう。(OECD Education2030 仮訳)

(上の枠内を画面共有し) これは、OECDのEducation2030プロジェクトにおいて、これからの教育を国際的にどうしていくかということについて、政府間で交渉される内容を表した文章の仮訳です。共有しているビジョンの中に、「すべての学習者」とありますが、これは子どもだけでなく、教師もそうですし、最終的には全ての人間ということになってきます。続いて、「一人の人間として全人的に成長し、その潜在能力を引き出し、個人、コミュニティ、そして地球のウェルビーイングの上に築かれる、私たちの未来の形成に携わ

っていくことができるように支えていく責務がある」とあり、これがある意味での教育の目標であると考えられます。また、「地球の」とありますが、地球自体の持続可能性ということも、非常に重要になってきます。いわゆるSDGsの観点でもありますが、これからの向こう10年を考えたときに、地球規模での視野が、一人一人の成長やその意味に直結していることから、そういった価値観を持つべきであるということです。そしてそれを、政府間で責任を持ち、そういった価値観を共有しようという提言となっています。

また、「彼らは、分断よりも協働を、短期的な利益よりも持続可能性を大切にして、責任を負うとともに権限を持つ必要がある。」とありますが、この「彼ら」とは、前述されている2018年に学校に入学する子どもたちのことですが、今まさに計画策定のために議論している2021年の私たちにおいても、状況は全く変わりません。ですから、これから一市民として、地球そのものを持続可能なものとして支え、その中で一人一人が幸せに生きていくということを実現するために、子どもだけでなく、大人たちにとっても、遠い世界の話ではなく、私たち一人一人の足元の問題になっているということです。そのように考えますと、先ほどあった「分断よりも協働を」という表現は、非常に重要になってきます。私たち一人一人の幸せや、自立や育ちというものが、協働の中でしか成り立っていかない状況になってきているということであると思います。

環境問題などはまさにそういった観点で取り上げられているわけですし、今年のノーベル賞の中でも、地球規模での温暖化問題が取り上げられているということも、このような文脈の中で捉えると納得できます。

ですので、各委員からご意見をいただいた中で、語順は以前と変わる部分はあるかもしれませんが、全体に関しては順序性にこだわらず、できれば今あるイメージ図を大事にし、第一印象としてはあくまでも「私」を尊重すると同時に、市民みんながつながり合うというような意識を持ち、大げさかもしれませんが、地球社会の在り方がここ10年で大きく変わってきているということも踏まえた上で、横須賀の教育の在り方として、事務局から出されている案を尊重してはいかがでしょうか。

#### (伊藤委員)

小林委員長に適切にまとめていただき、非常に感激しました。今日のこの会議でさまざまな意見をお聞きし、あらためて自分の意見を振り返り、人と関わる中での自分の再発見ということを感じました。今、小林委員長にまとめていただいたことで、「あなたが好き 私が好き 横須賀が好き」があらためて良いものであると感じました。ただ、ここで議論していることも、市民や児童生徒に伝わるかどうかということが非常に大事であると思いますので、例えば、「込めた思い」の部分に、小林委員長から今おっしゃっていただいたような内容を入れてもらえるとより良いと思いました。

#### (梅谷委員)

順序はないにせよ、最初に置いたものが一番であるという感は否めません。ですので、そこをきちんと説明し、我々がその土壌を持つということが大事であると考えています。

## ■議題2 計画全体の素案について

(教育政策課 小甲課長補佐)

資料3をご用意ください。

「未定稿」としておりますが、こちらが、現在事務局で調整中の次期計画全体の素案です。

表紙にありますとおり、令和11年度までの基本計画と、最初の4年間の前期実施計画も含む内容となります。

1ページをお開きください。第1章は、計画策定の趣旨、計画の位置付け、計画期間、計画の対象についてです。

2ページの計画の対象についてですが、この計画は、原則として対象範囲を教育委員会が所管する施策や事業に限定しています。例外として、横須賀美術館に関する施策や事業については、令和4年4月1日から、所管を教育委員会から市長へ移管する予定ですが、移管された後も横須賀美術館が教育機関であることに変わりはなく、今後も適切に社会教育を実施していくため、引き続き教育振興基本計画に位置付けることとしています。

なお、教育振興基本計画の対象範囲に含まれない施策・事業、例えば福祉、子育て、環境などで教育委員会が関係するものについては、他の分野の計画などに基づき、関係部局と連携し、推進していきます。

3ページをご覧ください。第2章は、目指す教育の姿と基本的な方針（横須賀市教育大綱）についてです。

4ページは、目指す教育の姿策定に当たっての補足説明です。目指す教育の姿とセットで計画に掲載し、背景や思いを丁寧に説明したいと考えています。

5ページをご覧ください。目指す教育の姿を実現させるための基本的な方針について、概要を述べています。

6ページをお開きください。第3章は、方針に基づく施策についてです。6・7ページの体系に基づき、8ページのように、柱ごとに目標指標を定め、9ページのように、施策ごとに現状と課題を述べた上で、具体的な事業内容を掲載しています。このつくりで各方針、柱、施策について掲載しています。

60ページをお開きください。第4章は、計画推進に当たって留意することについてです。SDGsとの関係性を意識した教育活動の展開、客観的な根拠を重視した教育政策の推進を留意することとしています。

61ページ以降は、資料編として、人口や児童生徒数と学校数の基礎データ、計画の策定経過、パブリック・コメント手続きの結果、計画の検討体制、関係法令を掲載し、67ページには掲載事業を一覧にしています。

計画全体の素案としては、現時点でこのような内容で事務局内での調整をしています。

柱以下の部分につきましては、予算編成も含め、主に事務局で検討する内容となりますが、外部の目からもご意見をいただき、計画全体をブラッシュアップしていきたいと考えています。

今回は、検討委員の皆様事前に素案の内容をご確認いただく時間を十分にとれません  
でした。申し訳ございませんでした。素案に対するご意見は、後日で構いませんので、事  
務局までいただければと思います。本日は、今の時点でお気付きになった範囲で、ご質問  
やご意見をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

**(梨本委員)**

37 ページの柱6について、今後、美術館は教育委員会の所管から外れますが、教育施設  
としてしっかり記載していただけたらと考えています。

指標 24 の「美術館企画展満足度」について、指標 23 に「美術館展覧会観覧者数」とい  
うものがありますが、そもそも美術館の企画展というのは、観覧するのに少々お金がかか  
ります。ですから、来館する人はどの企画展に行くかを選んで来ます。そうすると、企画  
展の観覧者数と企画展の満足度というのは、似たような指標になるのではないかと思いま  
す。教育委員会の所管から離れた後も教育機関ということですので、「教育普及事業の参加  
者の満足度」といった指標を入れていただけると良いと思いました。

次に、45 ページの事業 90「福祉活動の充実」について、これは「福祉活動」というタイ  
トルで良いのかという疑問を持ちました。ここでの内容というのは、来館しづらい人への  
アクセスの提供などが含まれており、決しておまけ的な要素ではないため、「福祉活動の」  
というタイトルには違和感があります。また、概要の 1 行目に「創作」とありますが、こ  
こは「制作」が適しているのではないのでしょうか。そして、箇条書きの 2 点目ですが、こ  
こは「対話型鑑賞」が適しているのではないのでしょうか。続いて箇条書き 3 点目ですが、  
「触察教材、音声ガイド等」とありますが、聴覚障害のある人向けの対応も行うことにな  
ると思いますので、例えば手話等も加えると良いのではないのでしょうか。

**(妹尾委員)**

方針 1 の柱 1「確かな学力」について、前回の会議などで、この要素は学力テストの  
ことだけではないだろうとの意見が交わされていたかと思えます。しかしながら、いくつ  
かの指標等を見ていくと、全国学力・学習状況調査の結果や質問紙調査の結果をベースに  
しており、結局、学力テストのスコアを気にしているように見えてしまいます。このまま  
だと、これを見た保護者や教職員は、個別最適な学びや協働的な学び、主体的な学びとい  
う点についてトーンダウンしないかという懸念があります。そこにぶら下がる施策や事業  
も、旧来型のような印象を受けます。ですので、このあたりに関して、教育委員会内でも  
もう少し議論をしていただけたら良いのではないかと思います。具体的にどのようにした  
ら良いのかということは、私自身も明確な答えを持っていませんが、学力テストでは測れ  
ないような、一人一人の子どもたちの個性や関心を伸ばす授業ができているかどうかとい  
うことも一つだと思います。正直な話、これは学校現場の先生方に聞かなければわからな  
いと思います。学力テストに出るよりも手前の先行指標などに基づいて、教職員が授業改  
善等をしっかりできているのかということや、個別最適な学びや協働的な学びを推進でき  
ているのかといったことをモニタリングしていくということなど検討する必要があるので

はないかと感じました。

また、先日、文部科学省から不登校等に関する数字が出ておりましたが、子どもたちの自殺に関しても大きな問題となっています。特に高校生に増えていますが、小中学生にも広がりを見せているということだそうです。今回の素案には、不登校の話や支援教育の話については、柱4あたりに出てきますが、子どもたちの自殺予防はほとんど出てきません。この問題は、福祉や教育などの間にあり、行政の中でもさまざまな部署にまたがる部分だと思います。難しい部分であり、抜本的な解決策があるものでもないのが悩ましいのですが、ここをもっと大人が大事にしていかなければならないと思いますので、今回のこの計画の中でも、何らかの形で向き合う必要があるのではないかと感じます。

#### (櫻井委員)

P T Aとしても、子どもの自殺については深刻に考えています。先日、フェイスブック社が、インスタグラムの利用が子どもの精神や身体に及ぼす悪影響についての調査結果を公表しました。それによると、子どもたちの3人に1人のインスタグラム利用者が、容姿や生活レベルについて、他人よりも劣っていると感じ、自己否定や自殺につながっているのだというものでした。日本においても、こういったSNSの利用が自殺との関係を深めているのではないかとということで、問題視されています。教育の中でこの話を展開するのは難しい部分ではありますが、これからは積極的に触れていかなければいけない部分ではないかと考えています。

また、素案 48 ページの事業 99「通学路の交通安全確保」について、これはP T Aでもよく相談を持ち掛けられる話であり、横須賀市は谷戸が非常に多く、がけ崩れや倒木の危険性のある箇所や、ガードレールのない危険な歩道などがまだまだ存在します。ですので、この事業に絡めて、危険箇所の把握ということも盛り込んでいただけるとありがたいと思います。

#### (松浦委員)

妹尾委員がおっしゃっていたように、学力テストに偏重しているのではないかと感じました。方針1の柱1「確かな学力」の目標指標について、6項目中5項目が学力状況調査に関わる指標になっており、学力状況調査が良ければ目標指標をクリアしたことになるのかという点で、教育委員会と学校現場の意識に乖離があると感じます。学力状況調査を実際に現場で実施している立場の感覚としては、子どもたちはスタート時点からフェアな状況で受けているわけではないと感じています。学校規模やその時のコンディションなど、いろいろな条件がある中での学力状況調査となっていますので、これのみを指標として確かな学力とするのはかなり危険だと考えます。学力状況調査の点数を上げることを目標に学校が動いた場合、教員は楽になると思います。しかし、それでは本当の意味で子どもたちの学力が成長しているとは言えないのではないのでしょうか。

もちろん教員の授業力の向上などのブラッシュアップは必要ですし、そのための施策も計画に中に入れていただきたいと考えますが、学力状況調査だけに基づく指標については、

もう少し検討していただけると良いと思います。

**(小林委員長)**

確かな学力という言葉自体を、学力論の中で狭いものとして捉えるという考え方はないと思います。むしろ、豊かさや多様性、多面性ということが強調される時代になってきています。ただ、一方で、指標としてデータを取る際に、どうしてもこの部分は硬直化してしまう現実があります。もう少し多面的で多様な観点からのデータに基づき、現場の生の意見などを練り込めるように、表現等を工夫していく必要があると思います。

**(小野寺委員)**

52 ページの事業 108「輝け！よこすかの子どもたち(市民向け広報)」の発行について、これはいつ発行しているのでしょうか。発行時期や回数などを書いていただけるとわかりやすいと思います。

**(教育政策課 古谷課長)**

昨年度までは、年に2回、秋から冬にかけての時期と年度末に発行しておりました。今年度からはデジタルでの発行に変え、年に1回の発行といたします。

記載の仕方については、検討させていただきます。

**(梨本委員)**

「確かな学力」について、家庭との連携や言語活動の観点などを含めて考えていくことが重要になるかと思っておりますので、そういった視点を含めた指標があると良いと感じました。

**(渡辺委員)**

50 ページの「施策 16 児童生徒の減少等に対応した学びの環境整備」について、こういったことが社会問題化している現状を見ると、小規模校が抱える問題には、さまざまな要因があるのではないかと考えられます。「1 現状と課題」の中で、少人数で男女比が偏っている学校では、「人間関係が固定化しやすい」という記載がありますが、この点について、例えば、小規模校であるがゆえに人間関係が固定化してしまい、それが要因となって児童生徒の成長や発達に影響や問題が生じるのであれば、その具体的な根拠なども記載すると、よりさまざまな視点からこの問題を考えなければいけないという深刻さが、保護者やそのほかの大人たちにも十分に伝わるのではないかと思います。

### ■議題3 教育委員会点検・評価報告書について

(教育政策課 小甲課長補佐)

冊子としている「教育委員会点検・評価報告書」の1ページをお開きください。

教育委員会は、法律に基づき、毎年、事務の管理や執行の状況について点検・評価を行い、その結果を議会に提出するとともに、公表しています。

この報告書は、今年度行った点検・評価の報告書を、先日開催された9月定例議会に提出したものです。

2ページをお開きください。

点検・評価は、毎年、前年度の事業を対象に行っていますが、今年度は次期計画の策定年度に当たるため、前年度だけではなく、現行計画期間(平成30年度から令和2年度まで)の取り組みに対する検証を行いました。現行計画における6つの重点課題ごと、主な取り組み内容と課題を挙げ、学識経験者の意見と教育委員の意見を掲載しています。17ページからは、個別の事業ごとの点検・評価の内容を、77ページからは、目標指標の達成状況に対する分析内容を掲載しています。

次期計画の中で、施策ごとに記載している「現状と課題」は、これら点検・評価の内容や、教育アンケートの結果等を踏まえたものとしていますので、ご参照いただければと思います。

(梨本委員)

先ほど、不登校の子どもが増えているというお話が妹尾委員からありましたが、82ページの指標9「不登校児童生徒の改善率」について、そもそもこの目標で良いのかという疑問があります。学校へ行っていないかったら、それは改善していないということなのかという観点がありますので、「改善」という表現に対してもう少し丁寧な説明が必要であると感じます。

(支援教育課 富澤課長)

「不登校児童生徒の改善率」については、事務局としても見直しをしていく予定です。令和元年10月の文部科学省による通知では、不登校に対する考え方が大きく変更となりました。それまでは、不登校の児童生徒が学校に登校することを目標にしていたため、これを改善と捉え、改善率として指標にしていました。しかし、この通知の中で、「児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要がある」と示されたことを受け、次期教育振興基本計画では、「将来の社会的自立のため支援体制を整え、そこで適切な支援を受けられているか」という観点での指標の設定を検討しているところです。これは毎年行われる国の調査で、数値として集計されるものでもあります。

(妹尾委員)

不登校の子どもたちや保護者に聞いた調査結果が文部科学省から出ましたが、その中に

不登校のきっかけという項目があり、小学生の場合、「先生がきっかけ」という理由が30%でトップになっていました。先生方が悪いとばかり言うつもりはありませんし、大多数の先生方が一生懸命に対応していただいていると思いますが、不登校から登校するようになったことを「改善」というネーミングにすることには違和感がありますが、一方で、本当は学校へ行きたいが、先生との関係や友人との関係で行かれなくなってしまったという子どももいます。改善率とは呼ばないものの、登校するようになった子どもたちがどの程度いるのかということについてモニタリングしていくということも、大事になってくるのではないかと思います。

当然ながら、個々の子どもたちによって理由は様々で複合的ですが、本当は登校したいのだけれどと考えている子どもも潜在的には多い可能性もあると思いますので、そういった観点も大事にしていきたいと思います。

点検・評価報告書で言うと、9～10ページ辺りですが、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活動日数が増えたというのは良いことだと思いますが、横須賀市に限らず全国的な問題として、そういった方々も1校当たりたまにしか来ることができず、あまり深い事案を扱うことができないというケースもあります。やはり専門的な方々としっかりつながるということは非常に大事なことです。こういった計画の中で強調して予算を取っていくということを考えていただきたいと思います。

#### ■議題4 今後のスケジュールについて

##### (教育政策課 小甲課長補佐)

本日の会議の後ですが、先ほど申し上げましたとおり、計画全体の素案についてご意見がありましたら、後日で構いませんので、事務局あてメール等でいただければと思います。

計画素案については精査を続け、11月の教育委員会定例会で報告し、パブリック・コメント手続きにかけることについて了承をいただきます。

12月の市議会で報告した後、12月10日から約1か月間、パブリック・コメント手続きを行い、市民の意見を募集します。

1月12日に第5回、最終の検討委員会を開き、パブリック・コメントでいただいたご意見と、それに対する教育委員会の考え方をご説明します。

その後、1月の総合教育会議で「目指す教育の姿」「方針」の部分を教育大綱とすることについて市長と教育委員会とで協議し、市長に教育大綱を策定していただきます。

2月の教育委員会定例会で教育振興基本計画の策定について議決をいただき、計画決定、3月の市議会で報告し、市民の皆様にも公表していく、という流れになります。

##### (小林委員長)

「今後のスケジュール」についてご質問・ご意見はありますか。また、全体をとおしてのご質問・ご意見もあれば、ここでいただきたいと思いますがいかがでしょうか。



(質問等なし)

(小林委員長)

それでは、本日の議題を全て終了させていただきます。本日もご協力ありがとうございました。

以上